P1-30

高齢者施設における介護職員の介護マスタリーがバーンアウトに与える影響—コーピングに着目して—

多田 朱里（北星学園大学大学院） 西山 薫（北星学園大学）

【問題と目的】

バーンアウト

- 対人援助職が慢性的なストレスにさらされることで生じる症候群。**「情緒的消耗感」「脱人格化」「個人的達成感の低下」**の3側面から成る（Maslach & Jackson, 1981）。
- 介護職員の約3割以上が該当➡サービスの質や離職に影響(伴, 2005)
- 介護への自信を高めることがバーンアウト軽減につながる可能性（堀田・佐藤, 2005）

介護マスタリー

- 介護の肯定的認知評価のひとつ。**「介護過程における自己の能力と行動に対する肯定的な認識と評価」**（Lawton et al., 1989）
- 安部（2002）…**介護マスタリーが高いほど精神的健康や介護継続意志が高まる**
- Lawton et al.（1989）…
  成功体験や認知的再評価が介護マスタリーの形成に寄与する可能性を示唆

コーピング

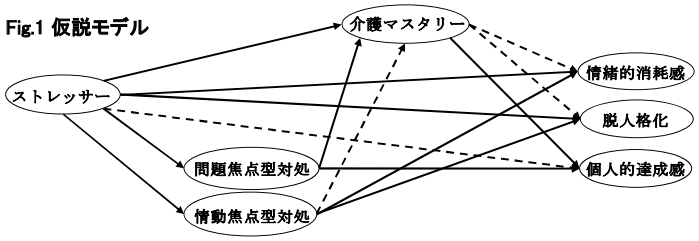
- ストレス状況に対処するための認知的・行動的努力（Lazarus & Folkman, 1984）
- **問題焦点型対処**と**情動焦点型対処**に大別される(Lazarus & Folkman, 1984)
- 安部（2002）
  コーピングの違いが介護マスタリー形成に関与する可能性を示唆

目的

①介護職員を対象に**介護マスタリーが介護職員のバーンアウトに与える影響**，および**介護マスタリーを高める**関連要因と想定される**コーピング**について検討する。

②資格の有無や雇用形態がバーンアウト得点に影響を与える可能性を示唆した先行研究（e.g., 久保, 2008）に基づき，**資格の有無および雇用形態がバーンアウト得点に及ぼす影響**について検討する。

Fig.1 仮説モデル



注. 実線のパスは正，破線のパスは負を表す。数値は標準化係数。

【方法】

調査対象者と手続き

- 通所型・入所型高齢者施設で介護サービスを提供する介護職員194名
  （男性：82, 女性：109, その他：3, M = 38.36y, SD = 9.52）
- 2025年8月1日から8月15日までの間，Google Formsを用いたWeb調査を実施
- クラウドソーシングサービスを通じて調査協力者を募集し，対象条件に合致した回答を分析対象とした

使用尺度（各下位因子は別紙）

1. 介護マスタリー尺度（安部, 2002）2因子10項目
2. 日本版MBI（Maslach Burnout Inventory）（東口ら, 1998）3因子22項目
3. 勤労者のためのコーピング特性簡易尺度（影山ら, 2004）6因子18項目
4. 老人介護スタッフのストレッサー評価尺度（矢冨ら, 1991）5因子29項目

◎本調査は北星学園大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：25-研倫第25号）

【本研究の課題】

モデルの適合度

結果では十分な指標ではなく，コーピングの各下位因子も考慮したモデルの修正が必要

コーピングと介護マスタリーの影響の方向性

本研究：安部（2002）の示唆に基づき，「コーピング→介護マスタリーの形成」と仮定
Pearlin & Schooler（1978）：「マスタリー→コーピングを選択・実行する際の基盤」
➡マスタリーがコーピングの選択に影響を及ぼす可能性も考えられる

対象者の属性

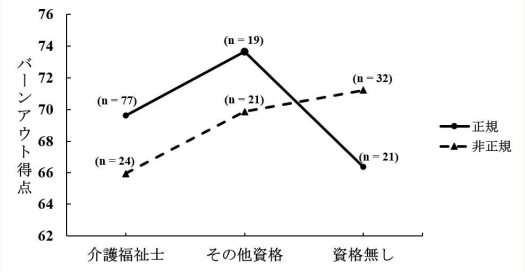
本調査：通所型または入所型高齢者施設の介護職員のみが対象
➡バーンアウト得点 = 慢性的ストレスに起因する疲弊？
＋介護技能の習熟度・職務適性等に関連する疲弊？

➡性差や**職務経験年数**を考慮した上で分析を試みる/**職務への意欲・動機づけ**を評価する指標の導入を検討

【結果と考察】

資格の有無，雇用形態によるバーンアウト得点の差（二要因分散分析, Fig.2）

- **主効果**および**交互作用**はいずれも**有意ではなかった**



- **久保（2008）：介護福祉士＞ホームヘルパー，常勤＞非常勤**
  本研究：資格の有無，雇用形態の違いによる有意差無し

☞本研究における資格群の設定やバーンアウト得点の扱いが異なるものの，業務内容の専門化・複雑化や正規・非正規間の業務同質化など，近年の介護現場における雇用環境やストレス状況の変化が影響した可能性がある。

仮説モデルに基づいた変数間の関連（共分散構造分析, Fig.3）

- 仮説モデル：
(1)介護職員が知覚するストレッサーがバーンアウトと関連するとともに，介護マスタリーの水準にも影響を及ぼす
(2)コーピング（問題焦点型/情動焦点型）の個人差が介護マスタリーの形成に関与し，介護マスタリーを介してバーンアウトの諸側面と関連する

- 相関関係（別紙）を考慮し，仮説を基盤に共変動の追加や有意でないパスを削除
- 最終モデルの適合度：$\chi^2(2988) = 6404.01$, $p < .001$, SRMR = .103, RMSEA = .077, CFI = .573, TLI = .560➡**良好とはいえない**

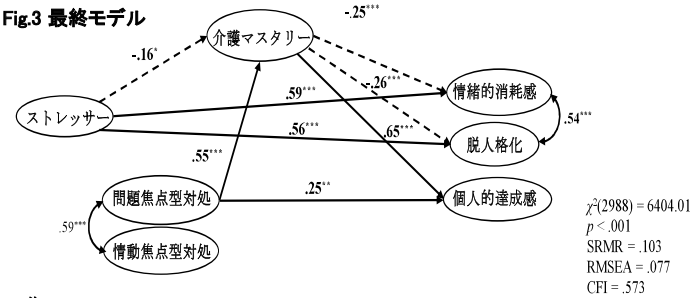
- **介護マスタリー**：情緒的消耗感/脱人格化を軽減(−.25; −.26)，個人的達成感を高める (.65)
- **問題焦点型対処**：介護マスタリーを高め(.55)，個人的達成感に弱い正の影響を示した (.25)

影響の経路	直接効果（β）	間接効果（β）：介護マスタリーを媒介
ストレッサー➡情緒的消耗感	.59 ($p < .001$)	.04 ($p = .061$)
ストレッサー➡脱人格化	.56 ($p < .001$)	.04 ($p = .065$)
問題焦点型対処➡個人的達成感	.25 ($p = .009$)	.35 ($p < .001$)

☞安部（2002）・堀田ら（2005）の指摘通り，介護マスタリーを高めることはバーンアウトの軽減に寄与する要因の一つであると考えられる

☞自身の介護を肯定的に評価し，問題に対し能動的に解決を試みる姿勢は，仕事の達成感を高める上で極めて重要

Fig.3 最終モデル



注. $^*p < .05$, $^{**}p < .01$, $^{***}p < .001$

注. 実線のパスは正，破線のパスは負を表す。数値は標準化係数。

【引用文献】
安部 幸志（2002）. 介護マスタリーの構造と精神的健康に与える影響
久保 真人（2008）. 介護福祉士資格所有者の職務ストレスとその職場環境

多田朱里：26s7004@hokusei.ac.jp